

校長室便り

(文責)

ドーハ
日本人学校校長
酢谷昌義

1人1人が「新年の抱負」を発表

「初心」を大切に…

今日から第3学期がスタートしました。久しぶりに友達と顔を合わせた子どもが多く、朝からとても楽しそうな雰囲気でした。

まずは大掃除から始まりましたが、今日の大掃除もみんな黙々と取り組んでいました。掃除や作業をいやがらず、真剣に取り組むことができるのは本当に大切なことです。こういう良さを、これからも伸ばしていきたいと思います。

始業式では、まずみんなで新年のあいさつを交わし、それからいつものように「3つのあ」について話しました。

今日は久しぶりの登校でしたが、元気の良い「あいさつ」を何人もの子ども達がしてくれました。誰もが自分から進んで気持ちの良いあいさつができるように、これからも働きかけていきたいと思います。

大掃除の様子から、「あせ」については今学期もみんな頑張ってくれそうだと期待がふくらみました。いろいろなことに対し、中でも自分にとっ

て苦手なことから逃げ出したがりせず、全力を尽くすことができるようになってほしいと思います。

「あとかたづけ」は、これまで最も気になるところでしたが、くつ箱の整頓は以前に比べずいぶん良くなってきました。くつをそろえたり、席を立つときにきちんとイスを入れたりすることの習慣化を通し、様々な後片付けに気がつくようにしたいと思います。

第3学期は他の学期に比べ短く、本当にあっという間に過ぎてしまうように感じます。しかし、各学年のまとめをするというとても大切な学期です。誰もが自分の目標をしっかり意識し、それを達成するために精一杯努力してほしいと思います。

式の後で、新年の抱負を全員が発表しました。1人1人の発表から、本当にやる気を感じました。そのやる気を前面に出して、自分の目標だけでなくいろいろなことに挑戦していけたら良いと思います。



みんなにこやかに登校してきました



始業式で元気良く歌う「校歌」



今日から新しい友達が2人増えました。2人とも小学部1年生です。

- ・〇〇〇〇さん
- ・〇〇〇〇くん

これで在籍34名になりました。ますますにぎやかになった今学期も、みんなで力を合わせて精一杯いろいろなことに頑張っていきたいと思います。

2人の転入生

校長室便り

(文責)

ドーハ
日本人学校

校長
酔谷昌義



最後はみんな一緒に踊りました

貴重な「よさこい踊り」の体験

昨日の4時間目に、日本から文化交流のために来られた「よさこいダンスチーム：ほにや」との交流会がありました。総勢17名の皆さんが、息の合った「よさこい踊り」を披露してくださいました。

交流会には、アル・バヤーン女子校からも13名の児童が参加し、後半は日本人学校の子ども達と一緒に鳴子の使い方や踊りを習い、楽しく過ごすことができました。

「よさこい」というのは、高知県の「よさこい節」や「よさこい祭り」のことを指しているのですが、最近ではドーハ日本人学校の子ども達も取り組む「よさこいソーラン」の方をイメージする人が多いかもしれません。そうなったのは、平成4年に北海道の札幌市で「YOSAKOIソーラン祭り」が開

かれて以降、「よさこい祭り」は「YOSAKOI祭り」として全国各地で行われるようになったからだそうです。

全国に広がるきっかけとなった、地元高知の皆さんの踊りを見せていただき、それを習うことができたのは本当に貴重な体験ではないかと思えます。教わっているときに「踊りはみんなで創り上げるもの。1人だけ上手でも、1人だけが目立ってもだめなんです。」

と話された言葉が忘れられません。

ドーハ日本人学校でも、運動会に向けて「よさこいソーラン」の練習が始まります。昨年の運動会時の2倍に児童生徒数は増えていますが、みんなの心も息も合わせ、自分達で創るドーハ日本人学校らしい演技にしてほしいと思います。そのためにも、今回の交流会はととても有意義なものだったと思います。

一月の詩

○小学部低学年

「雪(ゆき)」

文部省唱歌

雪やこんこ あられやこんこ

降っては降っては ずんずん積もる

山も野原も わたぼうしかぶり

枯木残らず 花が咲く

雪やこんこ あられやこんこ

降っても降っても まだ降りやまぬ

犬は喜び 庭かけまわり

猫はこたつで 丸くなる



○小学部中学年

「たこのうた(凧の歌)」

文部省唱歌

たこたこあがれ 風よくうけて

雲まであがれ 天まであがれ

絵凧に字凧 どちらも負けず

雲まであがれ 天まであがれ

あれあれさがる

引け引け糸を

あれあれあがる

離すな糸を



息の合った素晴らしい踊りでした



校長室便り

(文責)

ドーハ
日本人学校

校長
酢谷昌義



「よさこいソーラン」の練習開始

「運動会」に向かって

いよいよ運動の練習が始まりました。昨日の5時間目に全校児童生徒が集まり、今年度の運動会について全体説明が行われました。種目のことや練習のことなどを聞いている姿から、みんながとても楽しみにしていることがよく分かりました。

赤組・白組の組み分けは、誰もの緊張感が伝わってくるようでした。1人ずつ決まるたびに、大きな歓声が沸き起こっていました。適度な緊張感を保ちながら、これからの練習に真剣に取り組んでほしいと思います。

集中して体育的活動に取り組める運動会の練習は、この国ではとても貴重な時間です。思い切り運動に取り組むことで、しっかり身体に負荷をかけ基礎体力を養っていかなければ

ならないと思います。

また運動会練習は、集団行動を学ぶ場でもあります。集合や整列・移動など、きびきびと行動できるようにしなければなりません。とかく競技にだけ目が向きがちですが、練習の成果が本当に現れるのは、そうした競技以外の場面なのです。子ども達1人1人が、練習を通していろいろな

ことを学んでいくことができればと思います。

放課後活動では、3年生以上で「よさこいソーラン」の練習が行われました。昨年の経験者もいますが、初めての子ども達の方が多くなっています。低学年には難しい動きもありますが、みんなですっきりとしたものにしてほしいと思います。

一月の詩

○小学部高学年

「冬の夜」

文部省唱歌

燈火(ともしび)近く衣(きぬ)縫う母は

春の遊びの、楽しさ語る。

居並ぶ子どもは指を折りつつ

日数(ひかず)かぞえて喜び勇む。

囲炉裏火(いろりび)はとろとろ

外は吹雪。

囲炉裏のはたで縄(なわ)なう父は

過ぎいくさの手柄(てがら)を語る。

居並ぶ子どもはねむさ忘れて

耳を傾けこぶしを握る。

囲炉裏火はとろとろ

外は吹雪。

○中学部

「冬景色」

文部省唱歌

霧消ゆる湊江(みなとえ)の

舟に白し、朝の霜。

ただ水鳥の聲(こゑ)はして、

いまだ覺(さ)めず、岸の家。

鳥(からす)鳴きて木に高く、

人は畑(はた)に麥(むぎ)を踏む。

げに小春日(こはるひ)ののどけしや。

かへり咲(ざき)の花も見ゆ。

嵐吹きて雲は落ち、

時雨(しぐれ)降りて日は暮れぬ。

若(も)し燈(ともしび)のもれ来(き)ずば、

それと分かじ、野邊(のべ)の里。



運動会全体説明と組み分けの様子



校長室便り

(文責)

ドーハ
日本人学校
校長
酢谷昌義



体力は精神力を支える

「親心」はいつの時代も

毎月紹介している今月の詩は、詩集はもちろんいろいろなところから探しています。ずいぶん前になりますが、とてもすてきな詩を見つけてぜひ紹介したいと思っていたのですが、年の始めを歌ったものなので、年が改まるのを待っていました。

この詩は大正天皇がつけられた「歳朝示皇子」という漢詩です。大正天皇が、後の昭和天皇のことを思っておられる、親としての気持ちがとても良く伝わってきます。親として子を思う気持ちに変わりはないのだということが、私にはとても感動的で忘れられない詩になりました。

日々新たに励む人になってほしい。そして、困難なことから逃げず、それを乗り越えることができるようになってほしいという願いは、親であれば誰もが持っているのではないのでしょうか。ただそのために、親として何をしているかを考えてみる必要があるのではないかと思います。



身につけたい「基本的生活習慣」

私の個人的な思いですが、子ども達に不自由さや困難さをもっと経験させることが必要だと考えています。いろいろな面で恵まれ過ぎると、子ども達の耐性はやはり低くなっていくと思います。以前にも触れたことがあります。子ども達の前にあるハードルを取り除くのではなく、適度な高さのハードルを置きそれを超える経験を積ませることが、親として大切な姿勢なのではないかと思ひます。

ドーハ日本人学校の子供達には「たくましき」を身につけてほしいと、常々思っています。表現が適切ではありませんが、「壊れやすい」のではと心配になる子供達が増えているように感じます。

変化の激しい社会を生き抜かなければならない今の時代だからこそ、この詩のように「前向きで、そしてたくましくあってほしい。」と願うことの重要性を、改めて痛感しています。

「歳朝示皇子」

大正天皇御製

改曆方逢萬物新
示兒宜作日新人
経来辛苦心如鉄
看取梅花雪後春

「歳朝皇子に示す」

大正天皇御製

改曆方に逢ふ
兒に示す宜しく
辛苦を経来りて
看取せよ
梅花雪後の春を
萬物の新なるに
日新の人と作るべし
心鉄の如し

暦も改まり新しい年を迎えて、すべての物が一新された。この時にあたつて我が皇子(後の昭和天皇)にも、日々新たに自ら励む人となつてほしい。人間はさまざまな辛苦をへて、はじめて、心も鉄のように丈夫で堅くなるものである。梅の花も冷たい雪をくぐつてこそ、その後に暖かい春がやってくるのだということを忘れないでおくれ。